

令和4年度 「狛江市学習状況調査（NRT）」の結果 及び 「全国学力・学習状況調査」の結果【小学校】

狛江市学習状況調査

- (1) 調査実施日 令和4年4月12日（火）
- (2) 調査の目的
- ◇ 児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握、分析する。
 - ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。

(3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校 第5学年	国語、算数	前学年までに履修した内容	40分間、配布と回収を含め1単位時間（45分）を充てる。	609人
小学校 第6学年	国語、算数	修した内容		524人

第5学年

「狛江市学習状況調査」第5学年の結果（大領域別集計）

大領域別集計					
部	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)	全国正答率との比較
国語	1 話すこと・聞くこと	62.9	57.4	110	
	2 書くこと	56.7	53.0	107	
	3 読むこと	65.6	57.2	115	
算数	1 数と計算	71.9	63.9	113	
	2 図形	57.4	55.0	104	
	3 変化と関係	71.1	64.2	111	
	4 データの活用	59.2	52.5	113	

国語では、全ての領域において正答率が全国より上回った。特に「読むこと」の領域では全国より15%上回った。「読むこと」の問題としては、「主題の傾向を読み取る」、「詳細を読み取って解釈する」に関する問題が全国より大きく上回った。

算数においても全ての領域において正答率が全国より上回った。しかし、「図形」の領域から出題された、「角の大きさ」に関する問題の正答率は全国より下回った。「データの活用」の領域は全国より13%上回った。特に、「表と折れ線グラフ」の内容が全国より大きく上回った。

第6学年

「狛江市学習状況調査」第6学年の結果（大領域別集計）

大領域別集計					
部	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)	全国正答率との比較
国語	1 話すこと・聞くこと	68.6	61.7	111	
	2 書くこと	71.9	66.2	109	
	3 読むこと	67.4	63.0	107	
算数	1 数と計算	69.8	65.6	106	
	2 図形	71.3	62.9	113	
	3 変化と関係	65.2	56.9	115	
	4 データの活用	66.4	55.0	121	

国語では、全ての領域において正答率が全国より上回った。特に「話すこと・聞くこと」の領域では全国より11%上回った。「話すこと・聞くこと」の問題として出題された、「情報を選び構成を考えて話す」に関する問題が全国を大きく上回った。

算数では、「変化と関係」の領域が全国より15%上回っているが、同領域から出題された、「二つの数量の関係」に関する問題は全国より下回った。「データの活用」の領域は全ての問題において全国より大きく上回りトータルで21%上回った。

全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 調査の目的
- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇ 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - ◇ 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校 第6学年	国語、算数、理科	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項	45分間（準備・回収含めない）	520人

(4) 調査の内容

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ◇ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

第6学年

「全国学力・学習状況調査」第6学年の結果

国語	平均正答率			東京都比	全国比	
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)			
全体	65.5	64.2	60.4	1.3	5.1	
領域	A 話すこと・聞くこと	67.6	69.1	66.2	-1.5	1.4
	B 書くこと	54.8	51.3	48.5	3.5	6.3
	C 読むこと	74.1	72.1	66.6	2.0	7.5

全体の正答率としては、全国より5.1%、東京都より1.3%上回った。領域別では特に「書くこと」が6.3%、「読むこと」が7.5%、全国より上回った。その他の領域でも、全国及び東京都の正答率を上回ったが、「話すこと・聞くこと」の領域のみ東京都の正答率を1.5%下回った。

算数	平均正答率			東京都比	全国比	
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)			
全体	68.4	67.7	63.5	0.7	4.9	
領域	A 数と計算	73.2	72.1	69.8	1.1	3.4
	B 図形	68.3	68.6	64.0	-0.3	4.3
	C 変化と関係	56.6	57.6	51.3	-1.0	5.3
	D データの活用	75.3	72.4	68.7	2.9	6.6

全体の正答率としては、全国より4.9%、東京都より0.7%上回った。領域別では特に「変化と関係」が5.3%、「データの活用」が6.6%、全国より上回った。その他の領域でも、全国及び東京都の正答率を上回ったが、「図形」と「変化と関係」の領域は東京都の正答率を下回った。

狛江市学習状況調査と全国学力・学習状況調査（第6学年）の結果より

<国語> 「話すこと・聞くこと」の領域から出題された「話し合い自分の考えをまとめる」問題において、NRTの選択問題では、全国が63.3%、狛江市が69.4%の正答率であったが、全国学力調査では、記述式のため全国が47.7%、狛江市が47.5%と低い正答率となった。同様に「書くこと」の領域から出題された「文章に対する感想や意見を伝え合う」問題では、NRTの選択問題では、全国が83.3%、狛江市が89.6%の正答率であったが、全国学力調査では記述式のため、全国が37.7%、狛江市が41.0%と低い正答率となった。記述式の正答率を高めるため、国語科を中心に「書くこと」の力を教科等横断的に育成していく必要がある。

<算数> 「変化と関係」の領域から出題された「割合を求める」の問題では、NRTは記述式の応用問題であったため、全国、狛江市共に20%程度の低い正答率となった。また、全国学力調査における「割合に関する知識を選択肢の中から読み取る」問題では20%程度の低い正答率となった。NRTは応用問題であったため、自分の考えを理論的に記述する力を高める指導の工夫が必要であるが、全国学力調査は文章から題意を正確に読み取る読解力が求められる問題であったため、「読むこと」の力を教科等横断的に育成していく必要がある。